情勢

JA厚生連病院と農協が連携した地域活動
――病院栄養部門と農協組合員組織との連携を中心に――

主事研究員　尾高恵美

はじめに

本稿では，農協系統の地域活動について，JA厚生連病院と地元の農協が連携して取り組んでいる活動を中心に，内容とその効果を述べ，そこから示唆される農協系統の地域活動の方向性について考察する。

1　単位農協や組合員組織の意見を反映したJA厚生連病院の運営

現在，農協系統の医療事業は，主として県段階のJA厚生連によって運営されている。33都道県に35のJA厚生連があり，農村地域を中心に，全国で114病院，62診療所を運営している。農協法において，医療事業は，その公共性等に照らして，組合員の事業利用分量の100分の100まで組合員外の者の利用が認められており，JA厚生連病院は農協組合員以外の地域住民にも利用されている。

後述するように，JA厚生連病院は農協や組合員組織と協力しつつ，地域に密着した活動を行っている。背景には，その経営に農協や農協組合員の意見が反映される仕組みがある。

JA厚生連は単位農協等の出資を受けている。当該JA厚生連管内の単位農協の役員の一部は，JA厚生連の理事や監査役として経営に参画している。また，農中総研が2010年にJA厚生連病院を対象に実施した「病院給食に関するアンケート」調査結果(注)によると，42.9％の病院では，役員として参画していない地元の単位農協の役員と意見交換を行う場を設置している。

さらに，組合員組織の代表と意見交換を行う場を設けている病院も少なくない。「JA女性部との懇談」を行っている病院は33.3％，「JA青年部との懇談」は4.8％である。また，「その他のJA組合員組織との懇談」は22.6％であり，「その他」の中には後述する生産部会や助け合い組織も含まれているとみられる。JA女性部，JA青年部，その他のJA組合員組織のいずれか１つ以上に回答した病院の割合は44.0％となる。

このように，JA厚生連やその病院の運営には，出資者である単位農協やその組合員の意見を取り込む機会がある。実際に，JA福島厚生連では，組合員組織との意見交換会における女性部代表からの意見を取り入れて，病院給食で地場産野菜の使用を本格的に取り組み始めた経緯がある。

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。
農林中金総合研究所
http://www.nochuri.co.jp/

（注）「病院給食に関するアンケート」は，10年に全国114のJA厚生連病院を対象に農中総研が実施した。郵送にて配付・回収を行い，回収数は86病院，有効回答率は75.4%である。以下，とくに断らない場合には，同アンケートの結果による。

2　健康と食を軸としたJA厚生連病院の地域活動

アンケート調査結果によると，回答のあったすべてのJA厚生連病院において，地元の単位農協やその組合員組織と連携し，何らかの地域活動を実施している。ここでは，病院祭，健康管理活動，および地産地消について，アンケート調査結果により全体的な傾向をみてみたい（第１図）。

（1）　病院祭

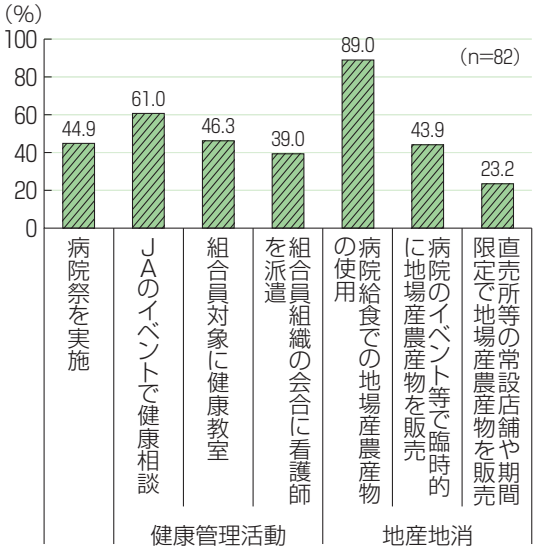
病院祭は，JA厚生連病院では比較的広く行われている。病院祭とは，病院を身近な存在として感じてもらうとともに，病気の予防や健康管理への意識を高めるために，病院を開放して，医師，看護師，栄養士等の病院職員が，展示，講演や音楽会等を行うというものである。

アンケート調査結果によると，病院祭を実施している割合は57.6％である。また，病院祭を開催している病院のうち44.9％では，地元農協がブースを開設し参加している。

（2）　健康管理活動

また，健康管理活動として，61.0％の病院において「JAのイベントでの健康相談」，

第１図　JA厚生連病院が農協・農協組合員組織と連携して実施している地域活動



資料　農中総研「病院給食に関するアンケート」
（注）　集計対象は，病院給食での地場産農産物使用に関する設問，病院祭等イベントに関する設問，農協・組合員組織と連携した取組みに関する設問，地場産農産物の販売に関する設問に回答した病院。

46.3％の病院で「組合員対象に健康教室」を行っている。

前者は，農協の直売所のイベントや農業祭等にJA厚生連病院の看護師が出向いて，参加者を対象に，健康診断や健康に関する相談を行うというものである。一方，健康教室は，組合員等から募集した参加者を対象に，年に数回，病院の医師，看護師，栄養士等が講師となり，病気の予防や健康増進の観点から，運動，栄養や介護等について講義を行ったり，糖尿病の患者やその家族を対象に食事の指導を行うというものである。

いずれの活動も病気の予防や回復を促すために重要な活動といえる。

（3）　病院での地産地消

さらに，多くの病院において，病院給食

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。
農林中金総合研究所
http://www.nochuri.co.jp/

に地場産農産物を使用したり，院内での地場産農産物の販売を行うなど地産地消に取り組んでいる。病院給食で地場産農産物を使用している病院の割合は89.0％，病院祭等のイベントで地場産農産物を販売している割合は43.9％，院内の直売所や売店で販売している割合は23.2％である。

アンケート調査結果によると，病院給食で使用している地場産農産物について，病院側では新鮮さや安全性を評価している。また地場産農産物を使用した病院給食への喫食者の評判や残食の状況について，「よい」と回答した割合は41.6％であり，病院給食での地場産食材の使用は，喫食者の健康回復に少なからず寄与している。

(4)　病院と農協の連携による地域活動による効果

JA厚生連病院と農協やその組合員組織が連携して実施した活動による効果として，組合員や地域住民の健康という共通の願いの実現への寄与があげられる。前述した健康相談や健康教室は病気の予防意識を高めると考えられる。また，地場産農産物を使用した病院給食は，喫食者の満足度を高め，喫食率の向上を通じて入院患者の健康回復への寄与を期待できる。

3　病院栄養部門と組合員組織が連携した取組み

次に，JA厚生連病院の栄養部門と，地元の単位農協の組合員組織が協力して取り組んでいる地域活動について，聞き取り調査結果により具体的にみてみたい。

(1)　平鹿総合病院と秋田ふるさと農協助け合い組織の伝統食の取組み

まず，JA秋田厚生連平鹿総合病院（以下「平鹿総合病院」）が地元の秋田ふるさと農協の組合員組織である助け合い組織と連携して取り組んでいる伝統食の提供について紹介する。

平鹿総合病院が所在する横手市は農業地帯であり，稲作を中心に野菜作や果樹作も盛んである。同病院内には農協の直売コーナーが設けられており，農協の生産者組織が出荷した農産物やその加工品が販売されている。

a　伝統食の取組み

平鹿総合病院では，08年度から病院給食で伝統食の提供を始めた。年に数回，通常食に付加して提供している。当地域には知恵をこらした豊かな伝統食があるものの若年世代には引き継がれていない。このため，病院給食を通じて伝統食の継承に一役買うことがねらいである。

それぞれ年１回のペースで，春には，ばっけ（フキノトウ）味噌や山菜（コゴミ）の天ぷら，初夏には笹餅，夏場にはこざき練り（砕米を練ったもの）や冷や汁（キュウリと赤シソの葉の入った冷たい味噌汁），冬には凍み大根，無病息災を願う地域の行事である病焼きの日（12月８日）には焼き餅，と季節や行事に合わせて提供している。フ

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。
農林中金総合研究所
http://www.nochuri.co.jp/

キノトウやコゴミといった山菜や笹餅の笹は職員が自ら山に採りに行き，凍み大根は大寒の日に病院の屋上に干した職員手作りの食材である。

提供した伝統食は，喫食者から好評であり，とくに高齢者には大変よろこばれている。また，伝統食普及のために用意しているレシピも，利用者やお見舞の方からの関心は高い。

b　病院と農協組合員組織との連携

伝統食の作り方を病院の栄養職員に伝授しているのは，秋田ふるさと農協の助け合い組織連絡協議会（以下「連絡協議会」）である。

秋田ふるさと農協助け合い組織（以下「助け合い組織」）は，管内に７組織があり，合計約200人が加入している。それら助け合い組織の本部として，横の連携等を行うのが連絡協議会である。

助け合い組織の目的は，高齢化が進む当地域において高齢者の暮らしを手助けすることである。活動としては，高齢者福祉施設でのボランティア，高齢者向けのミニデイサービスや配食サービス，声かけ運動等を行っている。活動内容をより充実したものにするために，会員同士が講師となったり，外部講師を招いて技術を学び合う研修会も行っており，平鹿総合病院の職員が外部講師を務めることもある。

助け合い組織の会員からはその活動を通じて「本当の自分を発揮できた」という声も聞かれた。活動を通じて会員である農協組合員が生きがいや充実感を大変強く感じていることを示している。

助け合い組織やその連絡協議会の活動を事務局として支えているのは，農協の生活指導員であり，本店と各総合支店に各1名配置されている。

前述した病院給食で提供している伝統食の調理方法の指導は，連絡協議会の活動の一環として行われている。「JAグループふるさとの味伝承活動」として，連絡協議会と平鹿総合病院との共催で講習会を実施している。

(2)　伊勢原協同病院と伊勢原市農協地場野菜出荷グループによる病院給食での地産地消

次に，JA神奈川厚生連伊勢原協同病院（以下「伊勢原協同病院」）と伊勢原市農協の生産部会である地場野菜出荷グループ（以下「出荷グループ」）が連携して取り組んでいる病院給食での地産地消について紹介する。

a　病院給食で地場産野菜を使用

伊勢原協同病院と出荷グループは，05年に病院給食で使用する地場産野菜の取引を始めた。病院給食での野菜の使用金額に占める地場産の割合は徐々に高まり，06年度の25％から09年度は31％に拡大した。出荷者は当初の10人から13人に増えるとともに，出荷品目は豊富になり，現在は，当院での使用頻度が高いコマツナやホウレンソウを中心に22品目を使用している。入院患

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。
農林中金総合研究所
http://www.nochuri.co.jp/

者にとって数少ない楽しみの１つである病院給食において，地場産野菜は鮮度が高くおいしいと評価されており，給食の質の向上を通じて地域に貢献しているといえる。

b　病院と出荷グループとの連携

出荷グループは大手スーパーの地元店舗に出荷するために02年に組織された。堆肥を多用して化学肥料の使用を極力抑えたり，EM菌（有用微生物群）を施用するなど，それぞれの生産者がより安全な栽培方法を工夫している。

とくに野菜の生育は天候変動の影響を受けやすいが，出荷を割り当てられた生産者が出荷できない場合には，まず出荷グループの中で対応可能な生産者を探すことにしている。このような対応は個人出荷では難しい。

また，病院では，出荷者の圃場を訪問して栽培方法等についてヒアリングを行い，それを広報誌やホームページで紹介している。地域住民の地場産農産物への理解を高めるとともに，販路を示して消費者に当院以外での利用の参考にしてもらうことも意図している。生産者は，病院給食向けに出荷することによって地域の消費者の安心感を高められることに大きなメリットを感じている。

さらに，病院給食で使用する野菜の出荷の割当と価格を決定し，相互の要望を調整するために，病院の栄養士，出荷グループの生産者，農協営農担当者が参加して週１回定例会議を開催している。病院給食で地産地消を続けることは，生産者，病院，農協の三者にとって負担は少なくないが，定例会議での意見交換も継続に重要な役割を果たしている。

おわりに
―農協系統の地域活動への示唆―

いうまでもなく農協は組合員のための組織である。一方で，農協の地域社会への貢献は，農協運動の理念であるJA綱領の中に位置付けられ，「環境・文化・福祉への貢献を通じて，安心して暮らせる豊かな地域社会を築こう」と明記されている。

現実の農協経営に目を移すと，正組合員数は減少傾向の中で，准組合員の存在感は増しており，農業者に対してだけでなく，地域住民に対する農協の貢献は大きな課題となっている。しかし，ここ20年間の農協の財務状況は，事業総利益が徐々に縮小し，人件費をはじめとする事業管理費を削減することによって事業利益を確保するという構造である。農協が直接的に地域活動に注力する場合に，人員を含めた財務面での制約が少なからず存在している。

このような状況下で，本稿でみた厚生連病院と組合員組織が連携した取組みは，農協が地域に貢献するための方向性として，組合員組織の地域活動への支援や，農協系統の事業間の連携による活動も有効であることを示唆している。

１つめの組合員組織による地域活動への支援の有効性については，前述した秋田ふ

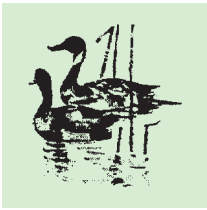
ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。
農林中金総合研究所
http://www.nochuri.co.jp/

るさと農協の助け合い組織の取組みに示されている。農協の生活指導員が事務局を担うことによって組織の活動は活性化し，その活動に参加することによって組合員は高い充実感を得ている。つまり，農協は組合員組織を支援し，その地域活動を活発にすることによって，組合員の満足度を高めつつ，間接的に地域への貢献を実現している。

２つめの事業間の連携については，伊勢原協同病院，出荷グループ，農協が協力して，病院給食で地場産野菜を使用している例があげられる。入院患者等の喫食者に提供する病院給食の質を高めつつ，地元生産者の農産物の安全性をアピールすることにも結びついている。事業の組合せによる地域活動は，複数の事業を兼営する総合農協の強みであり，これによって多様な属性をもつ地域住民のニーズに対応できる範囲は広がるものと考えられる。

<参考文献>
・石田正昭（2008）「現代社会の特質と協同組合運動の役割」小池恒男編『農協の存在意義と新しい展開方向』昭和堂　17～36ページ
・北川太一（2008）「農村地域社会の変容と農協の果たすべき役割」同上　37～58ページ

（おだか　めぐみ）



ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。
農林中金総合研究所
http://www.nochuri.co.jp/